

## 第 10 章 ひどい一年

- 奴は男だ、彼の全てを見てみる、

彼のような男を見ることはないだろう -

とても気に入っている、安定した仕事の突然の喪失は俳優にとって通常は痛みのある打撃でしょう。しかし、「テレビガイド」が後に述べているように、私は「アンクル」がなくなることを「ほとんど気に留めなかった」のです。なるほど：1967-68年の冬の殆どの私の時間は東南アジアでの戦争をやめさせるための努力に費やされていたのです。私の頭も心も1965年1月からはカルバーシティのMGMから1万マイル離れていたのです、アメリカが東南アジアにおける戦争を拡大し、北ベトナムの農民を爆撃し、彼らの食料供給に枯葉剤をまき散らしたその年から。私にとっては、ハリウッドで起きていることは遠く離れた未開の国で上演されていた恐怖のショーに匹敵するものではなかったのです。

1968年の始まりに - 多くのアメリカ人が我々の国もとてもひどい年として振り返るであろう年 - 私たち反戦民主当員は大統領候補を見つけ出しました。その人はユージン・マッカーシー、ミネソタ出身の上院議員で、評判が悪くなっているリンドン・ジョンソン大統領に挑戦する勇気を示した最初の優秀な政治家です。しかし、多くの戦争に反対する人たちがマッカーシーの周りに集結し、3月のニューハンプシャーでの予備選でジョンソンと一体一で戦う準備を進めていても、このミネソタの政治家が彼らの第一選択肢ではなかった

のです。ジョンソンに変わる最強の候補として考えられていたのはロバート・F・ケネディ、殺害された大統領の弟でニューヨーク出身のカリスマ的な一年生上院議員、でした。

反戦の感情は、しかしながら、その年が明けたころはおそらくまだ少数派でした。それが状況が一転したニュースで変わりました。

1月31日、戦争のニュースがアメリカの政界に衝撃をもたらしました。テト攻勢（ベトナムの旧正月のお祝いの後に）として知られるようになる攻撃で、7万とも言える北ベトナム人民軍がメコンデルタ地帯の街々から北の高原地域までの広範囲に襲い、100以上の街と標的を攻撃したのです。

その攻撃の範囲はアメリカ人を驚かせ、狼狽させました。そしてその時期もまた驚きでした。アメリカ軍総司令官であったウィリアム・ウェストモアランド大將は数年後のインタビューでこう語っています、「北ベトナム軍が旧正月に攻撃することが心理的に不利になるだろうと思っていたとは正直考えていませんでした、だから、テトのずっと前か後に攻撃があるだろうと考えていました。」アメリカがノーガードであったという事実はアメリカ人の間で増強していた感情、軍と政治家の上に立つ人たちが—ジョンソン大統領に至るまで—ベトナムで彼らが何をしているのか分からず、彼らがTVで何ヶ月も繰り返していた楽観的な予言が全く意味がないという感情をさらに強めました。

北ベトナム人民軍の攻撃は1月30日の夜に海岸沿いや山の7つの町、ベトナム第二の都市であるダナンを襲撃することから始まりました。翌朝、ベトコン奇襲隊員達は首都サイゴンにある一連の攻撃目標を襲いました。一部隊は南ベトナム海軍本部の外壁を銃撃で撃退される前に貫きました。別のベトコン部隊はその襲撃目標であったサイゴンの刑務所に到達する前に墓地で撃退されました。サイゴン空港にあったウェストモアランド大將の本部も攻撃を受け、また別の14人からなる部隊は大統領宮殿へ決死の覚悟で襲撃したが失敗に終わりました。ゲリラ部隊はサイゴンのラジオ局を6時間に亘り占領しましたが、技術者達は革命的なメッセージを放送するのを妨げました。

中でも一番大胆な行動が、19人からなる奇襲部隊がサイゴンのアメリカ大使館を襲撃し、建物を取り囲んでいた高い壁に穴をあけました。エルスワース・バンカー大使はすでに安全対策をとって近くの自宅から脱出していました。ベトコンは全員が殺害されるか撃退されるまで6時間に亘り大使館の一部を占拠しました。

数時間のうちに共産主義部隊がビエンホアのアメリカ空軍基地を襲い、他の共産軍も周到な計画通りに13の地方中心都市を攻撃しました。2つの大部隊が北部の美しい町、戦争で後輩したベトナムでも平和な聖域だったフエを侵略しました。彼らの標的はアメリカへの助言者達とそして彼らのために働く南ベトナム人でした、約三千人の兵士と公務員、学生を殺害しました。アメリカ軍と南ベトナム軍がフエを奪還するのに24日間を費やし、それには町の中心の壁に囲まれたシタデルでの残忍な白兵戦の日々も含んでのことです。南ベトナムの旗がフエの町に掲げられるころには町の殆どがガレキと化していました。

数百万のアメリカ市民とともに、私もこれらの出来事が夕方のTVニュースで繰り返されるのを畏敬と恐怖の念で見っていました。これは一体全体何を意味しているのか？

私は電話でアラード・ロウエンスタインを探し出しました。「アル、このニュースを見ているかい？」

「ああ、もちろん見ているよ。そして、これはこういう事だよ：マッカーシがニューハンプシャーの予備選で勝ち、そしてそれによりボビーを動かすことになるんだよ。」

アルはニューハンプシャーについてはハズレましたが、テト攻勢がアメリカ市民におたらす心理的な影響については当たっていました。2月中のこの攻勢についての報道と国内の反応は圧倒的に否定的なものでした。ABCでは、ジョセフ・C・ハーチがアメリカは「ベトナムにおける二年にわたるアメリカの大掛りな軍事介入のあと、敵がこの戦争のうちではるかに大きく、広範囲にそして最も精巧な攻撃をする力を付けてきたという事実を素直に認める」リーダーが必要であるとして、政府高官を率直さに欠けると批判しました。

ベトナムへのアメリカ介入理由に対する最も深刻なメディアの背信は、CBS イブニングニュースのアンカーで、世界中で尊敬される TV ジャーナリストのウォルター・クロンカイトの言動でありました。テト攻勢に呆然としたクロンカイトは2月11日にベトナムへ飛び、フエの破壊された街並みを含め数日の間、国をまわりました。2月27日木曜日、CBSはクロンカイトの「ベトナム報告」30分特別番組を、まるで第二次世界対戦の爆撃で破壊されたのと同様なベトナムの街々の映像を沢山使って放送しました。番組最後の締めくくりで、彼はこの戦争に関する政府の継続した楽観論を激しく非難しました。今や、彼は言います、「ベトナムでの血なまぐさい経験で行き詰まりを終わらせるべきであることは間違いありません。」と。そして必然的な疑問が上がりました：もしベトナムで勝利することが不可能であるならば、何故アメリカ人がまだ戦いを続け—そして死んで行くのか—そこで？

皮肉なことに、軍事的な意義に絞って言えば、テト攻勢は失敗でした。共産軍の死者はアメリカ、南ベトナム軍の被害の何倍にも及び、ベトコンが占拠した地域は数週間うちに南側が取り返しました。一番重要なことは、テト攻勢を機に活発化させようと目論んでいた南ベトナムの人々の間で起きていた親共産主義が決して熟すことが無かったと言うことです。しかし、これらの事は全く関係ありませんでした。その攻撃のあまりに衝撃に、アメリカ国民とベトナムの状況を明らかに率直に話そうとしたがらないアメリカ政府のリーダーシップとこの戦争に勝利はないという増長する感情により、テト攻勢がこの戦争に対する姿勢の進展に於いての転機となりました。

テト攻勢と国民感情の変化が無謀なマッカーシーのキャンペーンを刺激しました。ニューハンプシャーの、全国で最初の予備選に於いて、若い学生ボランティア（多くの人がヒゲを剃り、髪の毛をきちんと刈り込み、清潔感をアピールした）の団体が突然出現しました。アイオワ州カウンスルブラッフの神学生で、平和を唱え、マッカーシーのキャンペーンの学生コーディネーターを務めるサム・ブラウンに率いられ、2～3千人のボランティアが東部の100の大学から集まり、その州中を散開したのです、ドアベルを鳴らして戸別訪問し、電話を掛け、パンフレットを配って歩きました。伝統的に保守的な州の多くの住人は、彼ら若

者の理想に魅了され、薬とセックスに溺れた無政府主義者のヒッピー達と比べて良い意味で対照的となりました。

3月12日予備選挙の日の夜が明け、殆どの観察者達はマッカーシーが民主党員投票の4分の1—大統領にとって敗北ではないけれど、かなりの圧力にはなる、は獲得するのではないかと予測していました。結果として、マッカーシーはニューハンプシャーの投票の42パーセント獲得し、ジョンソンの得票230票以内に終わりました。

ニューハンプシャーでのマッカーシーのほぼ勝利に近い結果の意味は最初に現れたほどに明確ではなかったかもしれません。投票は後に、マッカーシーの獲得した投票の5分の3は通常はタカ派支持者で、ジョンソンを「十分なタカ派ではないという理由で」見捨てたのです。そのように、マッカーシーの平和的な正網を支持するというよりはむしろ投票はドン・ドン不人気になっている大統領を単に拒否した結果であった可能性があります。

それでもなお、ニューハンプシャーの結果は政界を嘩然とさせました。そしてそれはケネディと彼の側近達による苦悶に満ちた再分析を促しました。彼は実際のところ、ジョンソンとの政治的な取引を提案しました。彼の弟のテッドとテッド・ソレンセン、そして国防長官のクラーク・クリフォードとの会合の後、かれはジョンソンにクリフォードを通し、ベトナム戦争を「再評価する」ための第三者機関を設けるように依頼しました。もしジョンソンがそれに同意すればケネディは大統領戦には加わらないという条件でした。しかしジョンソンはその考えを大統領としてのリーダーシップを放棄し共産主義者達をただ助けるだけだとして、拒否しました。

ケネディはマッカーシーにも宿舎を提供しました。ニューハンプシャー予備選の後、その二人の上院議員はテッド・ケネディのワシントンの事務所で会談し、そしてその二日後、双方のキャンペーンの代表者がウィスコンシン州グリーンベイで会合を持ちました。両方の機会、彼らはジョンソンを退かせるため合同で行動する可能性について話し合いました。しかしマッカーシーは、彼が勝利の可能性を証明した後での、ケネディの大統領候補戦への日和見主義的な行動と判断し、激怒しました。「ニューハンプシャーでは少々寂しかったよ」

と辛辣に言いました。ケネディはマッカーシーの彼と競合しない州でのキャンペーンに制限するというよう要求を受け入れることを渋りました。取引は成立しませんでした。

3月16日土曜日、ケネディは上院議員集会室での記者会見で大統領候補戦へ参加する意思を表明しました。それは彼のお兄さんが8年前に出馬を表明したのと同じ場所でした。彼はこの国の「悲惨で分裂的な政治」はホワイトハウスに於ける変革によってのみ転換されると述べました。

私はRFKの発表をアイリーンと言う若い美しいアジア女性のサンセット大通りの家の居間でTVで見えていました、彼女は「もし投票できるなら、私はボビーに入れるは。彼、素敵なもの」と言いました。

そう思ったのはアイリーンだけではありませんでした。1960年の彼のお兄さんのように、1968年のロバート・ケネディは素早く若い女性集団を惹きつけ、彼女たちは彼を政治家というよりもビートルズの5人目のメンバーかのように崇めたのです。彼がキャンペーン会場へ到着した時は、通常候補者が立てるように平らなトランクのあるリンカンコンパニティブルに乗っていたのですが、彼のティーンエージャーのファン達は「ボビー！」と叫びながら群集の中で飛び跳ねるのです。実際に投票権がある年齢に達している人たちと握手をしようとするケネディの試みは、しばしばその「ジャンパー」たちから彼自身の身を守る必要があつて妨害されました。

ケネディは政治力の魅力と名誉を十分認識しており—あるTV俳優をその舞台へ飛び込むことを一時的に後押ししようとした位でした。

私が、ボブの候補者レースに出馬すると表明する前に最後にヒッコリーヒルを訪れた時、私は厩舎で彼の馬「司法長官」の毛並みを整えていました。ボビーが来て、少し話をした後、彼は「君はいつ我々の仲間になるつもりだい？」と言いました。

私は「どう言う意味です？」と尋ね返しました。

ボビーは「カルフォルニアで上院議員の席がもうすぐ一つ空くんだよ。君の名声と話力を  
持ってして、それに出るべきだと思うんだけどね」と言いました。

光栄に思い、しかし少々困惑し、「あなたが大統領執務室に座り、戦争を終わらせたなら、  
その時もう一度話しをしましょう。」と答えました。

彼は大声で笑い、微笑みそして彼の典型的なハムレット流儀で「まあいずれ分かるだろう  
ね」と言いました。

私その後彼に個人的に会うことは、二度とありませんでした。

出来事は春、夏と素早く展開されていきました。 3月—6月の間に14の民主党予備選  
が予定されて、そのうち4あるいは5つの予備選がマッカーシーとケネディに勝ち目がある  
か五角かとされていました。

3月31日夕方、ジョンソン大統領は全国放送の時間にベトナムについて国民に演説し  
ました。彼の演説で、アメリカのこの戦争における苦悶の歴史を最近のテト攻勢を含めて振  
り返りました。彼は政府が北ベトナムと行なった平和交渉について詳しく語り、一方的な戦  
闘行為の縮小を表明し、それが先方も同等に抑制し、和平交渉が開始されることになるのを  
望むとしました。

演説の締めくくりで、ジョンソンは国内政治の苦々しい雰囲気が増加していることに向い  
て述べました。

我々の国への37年間の奉仕、初めは国会議員として、上院議員そして副大統領そして今大統領と  
して、私は人々の団結を第一に考えてきました。私はそれを党派心の分裂よりも優先してきました。  
そして今日に以前と同様に、それにも反し、議会が党派、政党、地域、宗教、民族によって分裂して  
いるのは事実です、それでは持ちこたえることができません。

アメリカ議会に今分裂があります。今夜も我々の間に不和があります。そして全ての国民の大統領  
として信頼を預かっているものとして、アメリカの人々の発展、希望、全ての人々の平和の尊重の危

険を無視することはできません、それゆえ、私は全てのアメリカ国民に個人的な興味や心配がなんであらうと、不和とその険悪な結末に対し警戒するようお願いしたい。

ここまでは狭間にある大統領が彼の増加する不人気に対し、国民の指示を訴える普通の政治的な美辞麗句でした。ジョンソンの口から「団結」を呼びかける声は多くの耳には意義をもみ消すための口実に聞こえました。しかしジョンソンは彼のその美辞麗句を自分自身に向け、その年のあつと言わせる政治的な爆弾を落としたのです。

国を遠く離れた戦地のアメリカの息子たち、ここ故国に於ける未来に向けての挑戦、日常にバランスを保つための我々そして世界の平和に対する願いをもってして、私が私の一時間でも一日でもこのオフィスの荘厳なる責務—貴方の国の大統領としての仕事以外のいかなる個人的な党利的な問題あるはいかなる仕事に捧げるべきであるとは思えません。

したがって、私は次期大統領としてのわが党の候補になる可能性を探ることも推薦を受けることも致しません。

ジョンソンの演説の時には、私はロサンゼルスから、スティーブ・マックイーンとの「ブリット」撮影のためサンフランシスコに向う飛行機の中でした。パイロットが機内アナウンスでリンドン・ジョンソンが民主党の大統領候補推薦を受けるつもりはないとちょうど発表したと告げた時、乗客達から大歓声と拍手喝采が沸き上がりました。私はその最も喜んだ人々の中の一人でした。

4月2日のウィスコンシン予備選ではマッカーシーは投票者の56パーセントを獲得し、すでにレースから身を引いていたジョンソン大統領の35パーセントを上回りました。

その二日後、4月4日、私がまたロサンゼルスからサンフランシスコへ向かう機内で、別のパイロットがマーティン・ルーサー・キングジュニア博士がメンフィスで撃たれて死亡したことを我々に告げました。私はその知らせを聞いた時、言葉を失うくらい驚き、具合が悪くなりました。

一方、副大統領のヒューバート・ハンフリーはジョンソンの後を引き継ごうと（マントを拾おうと）踏み出しました。ミネソタの公民権運動やその他進歩的な運動で輝かしい実績を持つリベラル派であるハンフリーはベトナムのジョンソンの遺産を背負い込んでいました。政権の戦争政策に対する彼の不満は広く噂されてはいましたが、ジョンソンに対して忠誠を誓う彼には公に意義を唱えることは許されていませんでした。

5月7日、ケネディがインディアナ予備選で投票の47パーセントを獲得しました。その州の民主党知事で政党支部の代表として優等生候補として出馬したロジャー・ブランニガンは、約31パーセントを得、マッカーシーは3番目の27パーセントでした。当時の党則が明記していたように、しかしながら、ケネディの勝利は8月の大統領候補指名大会でのこの州の支持を保証するものではありませんでした。代表は実際には6月の州大会で党员によって選出され、先の勝者には1票だけが約束されているのです：その後は、彼らはほぼ間違いなく彼らの忠誠心を、支部の候補者であるヒューバート・ハンフリーに向けるであろうと思われました。

一週間後、ケネディはインディアナに続きネブラスカで31パーセントに対し、52パーセントを獲得し勝利しました。

マッカーシーは、5月28日のオレゴン予備選にて、39パーセントに対して45パーセントで勝利しました。残りの票の殆どはまだ名前が残っていたジョンソンにいきました。マッカーシーは彼がジョンソンに対する挑戦者として最初に名乗りをあげた勇気を覚えている反戦活動家の忠誠心の恩恵を受けました。RFKのマッカーシーに対する敗亡はケネディの27キャンペーンのうちで最初のものでした。

ケネディにとっても意味があったのは一当時は殆ど注意が向けられませんでしたが一オレゴンでのあるキャンペーンでのことでした。ポートランドのテンプル ニューブ シャロムで、彼は情熱を込めて、イスラエルを守るというアメリカの約束について演説をしたのです。「アメリカはイスラエルを如何なる侵略から守らなければなりません。」と彼は述べたのです。翌日、カルフォルニア州パサデナの新聞は彼の演説とともにケネディがヤムルカ

をかぶっている写真を載せました。この新聞を見たロサンゼルスに家族とともに暮らす、サーハン・サーハンという名のパレスチナ難民が彼のノートに記しました：「ロバート・F・ケネディは1968年6月5日までに暗殺されるべき」と。その日はカルフォルニア予備選の一日後の日でした。

映画「ブリット」の撮影が5月に終わり、私は私の頭を博士号に向けての研究とデセンダントデモクラットの仕事に集中させることができました。私たちはマッカーシーを引き続き支援していましたが、他の反戦運動グループ同様に、私たちも彼とケネディの間で引き裂かれていました。

私はどうすべきか決めるのに苦しみもがく多くの民主党員の一人でした。私の名前がマッカーシー支援者のリストに載っているにも拘わらず、私の心はケネディと共にありました。私は彼が、民主党の推薦と総選挙の両方に勝利するであろうことを確信していました。私はRFKの近い友人であるトム・ブライデンやケネディ陣営の他の人たちから頻りに電話をもらっていました、私が一体いつ仲間に加わるのかと。そしてその頃、私はアル・ローウェンスタインと私の中での対立について絶えず話していました：彼は今、ニューヨークのロングアイランドの第五選挙区から国会に出ようとしており、私に彼のためにキャンペーンをすることを望んでいました。

もちろん、私の俳優としての仕事が全くの保留状態であったわけではありません。当時の私の代理人、クリエイティブ マネージメント エージェンシー (CMA) のマックス・アーナウが電話をしてきて、チェコスロバキアで撮影される予定の第二次世界大戦映画「レマゲン鉄橋」のドイツ国防軍少佐役の候補に私が上がっていると告げました。プロデューサーのデイビッド・ウォルパーと監督のジョン・ギラーミンは、私がドイツ語を確実に話せるかどうかを確かめるために、私との面談を望みました。私は博士号取得のための一部分としてのドイツ語試験に備えて膨大な時間を費やしていたので、私は自信に満ちて、勉強してきたドイツ語のテキストを抱えて、面談に臨みました。映画の台本を使うより、私はそのテ

キストから選び読みました。映画製作者達は彼らが聞いた物を気に入り、私はその役に採用されました。

翌日、大学からの古い友人で、ニューヨークの ABC—TV で「今週の映画」編集者をしているジム・バトラーから電話を受けました。

「君の去年のビル・バックレーとのベトナムについてのデバートを見たよ。」と彼は言います。「良い出来だったね。君は右翼の雄弁な演説家をちょっと混乱させたよ。」

「ああ、それはありがとう。」と私は言い、「それが君のこの電話と何か関係があるのかい？」

「正にそうなんだよ、私たちは、この夏の党大会で放送ブースから生でコメントをしてもらうのに、バックレーのスケジュールを抑えたんだ。それで、反対の見解を持っている人を今探しているんだよ。君興味ないかい？」と言いました。

「もちろん興味あるよ。でも、ちょうど8月の間ヨーロッパで映画の撮影をする契約をしたところなんだよ。」この時間の問題を解決する方法は全くありませんでした。

結果として、ABC はバックレーをゴア・ヴィダル、有名な小説家、劇作家、評論家そして左派の挑発家と組ませました。彼らの騒々しい1968年の大会中の生放送討論はTVの生放送の歴史の中でも最も狂気じみた一時を作り出しました。8月28日水曜日、ABCの報道記者のハワード・K・スミスがとりもっていた二人のやり取りが戦争反対の話題に向けられました。誰かが第二次世界大戦中のアメリカ国粋主義同調者の取り扱いについて触れた後、ヴィタルがバックレーに向かって「私に関して言えば、私が考えつく唯一の親ナチあるいは隠れナチは君自身だね」

バックレーは激怒して叫びました。「よく聞け、このホモ野郎。私のことを隠れナチと呼ぶのをやめろ、さもないとお前の顔をぶん殴って、絆創膏だらけにしてやるぞ！」

これは ABC が契約した以上のことでした。この二人の紳士の間での訴訟騒動はその後 4 年間続きました。

一方、春に話を戻しましょう、私は言語試験と筆記と口述の博士号試験をてきぱきと片付けて、東に向かいました。幾つかの大学と民主党基金集めの会合で反戦の演説をしました。その反応から、アル・ローウェンスタインが巧みに演出した戦争終焉のための感激的な最終章の舞台が整ったのは明らかでした。予備選ではケネディが国民はもう戦争にうんざりしていることを証明しました。民主党大会が彼に背を向けることが出来ないのは確かでした。私はアル自身がロバート・F・ケネディ大統領の第一期政権間、国会にいるであろうと期待していました。しかしそれ以上にベトナムにおけるアメリカの惨めな流血が終わることを望んでいました。

私はアルの国会出馬を支援するために私の春を捧げました。私はニューヨークのロングビーチにある支援者達の家滞りし、朝早く起き、美容室、ボウリング条、そしてスーパーマーケットで握手をし、赤ちゃんにキスをし、アングルの女性ファンたちを抱きしめる長い一日の日々を過ごしました。それは全く楽しくはありませんでした。しかし私のアルにたいする尊敬の念が私に進んでそれをさせたのです。私は彼が国会のホールや議員控え室で強い発言力をもつことを夢みていました。

1968年6月4日はロングアイランドでは季節外れに暑い日でした。私がロングビーチのリンデル大通りにあるアルの家に戻った夕方までには、気温は多少下がっては入りました。家はとても静かでした：アルの学生支援者の殆どはまだ演説会で働いていました。私はシャツを緩め、冷蔵庫から半分ぬるいビールを取り出し、重大なカルフォルニアの予備選の結果を見ようと古い白黒TVの前に座りました。

これが予備選挙シーズンに於いて最も大きな戦いでした。カルフォルニアの174人の大会代表者は推薦に必要な人数の13パーセント以上も占めていたのです。この州がそれほど重要であったので、ケネディはもし彼がカルフォルニアで負けたなら、マッカーシーに有利になるようにレースから降りるとまで言っていた程でした。

ボビーは際どい勝利を収めました—マッカーシーの42パーセントに対し、46パーセント、ハンフリーのために立った州の司法長官のトーマス・リンチは12パーセントでした。

午前3時—西海岸の真夜中—ボビーが彼のキャンペーンのために動いてくれている人たちを讃えるために、ロサンゼルスのアムバサダーホテルでテレビカメラの前に現れました。

彼はやつれているように見えたが幸せそうでした。白とオレンジのミニスカートと白のストッキングに身を包んだエセルが傍に立っていました。ボビーは6回連続シャットアウトの記録を作ったドジャーズのピッチャードン・ドライズデールについて「我々のキャンペーンにも幸運が有る。」ことを願って、ジョークを言いました。群集とTVを見ているであろう全国のケネディ支援者に感謝した後、彼はこう言いました、「そして今シカゴへ向かおう、そしてそこで勝利しよう」と。

アルは、ケネディが撃たれたことをTVニュースが伝えた時に、ちょうど帰宅しました。

アルはロサンゼルスディック・グッドウィンやボビーの他の関係者たちに、連続して電話をかけ始めました。その電話と電話の間に彼はケネディがグッドサマリタン病院へ運ばれたことを私に知らせました。何時間もの間、希望と恐怖が戦いました。1962年11月22日の正にあの30分間、ダラスの自動車パレードで3発の銃弾が発砲されたという発表とウォルター・クロンカイトが大統領の死を確認するまでの間のように、最悪の事態を信じたくはありませんでした。しかし、電話をかけるのを一休みしてアルと私は近くの浜辺を歩きに出ました。太陽が昇り始めたとき、アルが私に言いました、「グッドウィンはもう駄目だと言っている。時間の問題だそうだ。」そして彼は、「これからロサンゼルスに行くよ。戻ってきたら、私はこの選挙戦から身を引くよ。」と言ったのです。

私は唾然とし、「それはないだろう、アル。君と私たち皆のためにボビーが大統領選に立候補したんだよ。だから彼はカルフォルニアに行ったんだよ。そのせいで彼は死のうとしているんだ。君は勝たなければいけないんだよ—彼のために。」

アルは長い間黙っていました。私の言ったことを理解していないのではないかと恐れ、私は私の言葉を繰り返しました。アルはただ彼の手を挙げ、眼鏡をはずしました、そしてつぶやきました、「分かってる、分かってるよ」

数時間後、アルはカルフォルニアに立ちました。彼は二日後に殺害された二人目のケネディの遺体をは運ぶ飛行機で帰ってくる予定でした。

どうにかして—どうやってかは覚えていません—私はマンハッタンのセントラルパーク西にある私のアパートに戻りました。私は翌日早朝まで涙を流さなかったのを覚えていますが、発砲から26時間後、スポークスマンのフランク・マンキウィックが公式にボビーの死を発表し、「彼は42歳でした。」と加えた時、私は崩れ落ち、涙が枯れるまで泣きました。

私が再び正常に機能するまで何ヶ月もかかりました。私は鬱に沈み込み、翌年私の将来の妻に出会うまで立ち直れませんでした。

\*\*\*

1968年6月6日木曜日の夜、ボビーの棺は聖パトリック大聖堂に運び込まれました。その夜、バリー・グレー・トークショーの基礎を築いた、ニューヨークのラジオホスト、が私に彼の番組に出演するように依頼しました。私たちが翌朝1時ころに番組を終えると、バリーが教会まで歩いて行くことを提案しました。暑さは耐え難く、そして私たちが東51番街に到着したとき、そこには人々の長い列がありました—おそらく千人あるいはもっと—5時半の偉大なるカトリック教会が一般に向けて開くのを待つ既に並んでいたのです。夜を通して棺の傍に立っていた人たちが残りました。すると誰かが私に気がついて、バリー・グレーと私は、突然明るいマホガニーの箱の傍に立つように依頼されました、私や他の多くの人々がアメリカの次期大統領になるであろうと信じた人の遺体が収められた棺の傍に。

土曜日の朝、私は11時に予定されていた葬送ミサの30程前に聖パトリック大聖堂に到着しました。私が一番最初に見た人物はリンドン・B・ジョンソンで、教会の外に集まった人々の中をにこりともせず大股に通り抜けて行きました。

私自身はそれから行われるであろうことの全てを見聞き出来るこの偉大なる教会の真ん中近くに席を見つけ座りました。

驚くほどの著名な人々が大聖堂に集まりました。ロバート・マクナマラ、W・アヴェレル・ハリマン、そしてダグラス・ディロンといった政治家、ジェイソン・ロバーツ、シャーリー・マクレーン、そしてカーク・ダグラスを始めとするショービジネスの人たち、詩人ロバート・ロウエル、小説家トルーマン・ケイポートといった作家達、そしてジャーナリストのジミー・プレスリンとスチュワート・アルソプなどです。過激な労働者運動家のセザール・チャベスと彼の仲間の農場労働者たちは席を見つけることが出来ず、国会の代表団の前に立つこととなり、彼らの視界を遮ることとなりました—熱く燃えるチャベスと彼の支持者たちが楽しんだ偶然なる肘鉄でした。

私のその式典のなかでもっとも鮮明な記憶は二つの音です。一つはエドワード・ケネディ、銃弾に倒れた二人目の兄を讃える彼の力強い声は感情でボロボロに砕けていました：彼は言いました、**ロバートは**

*善良で礼儀正しい人として。*

*悪を見てそれを正そうとした人として、*

*苦しみを見て癒そうとした人として、*

*戦争を見て終わらせようとした人として*

*人々の記憶に残るべきです。*

もう一つはアンディ・ウィリアムズのシュールな汚れなき声、大聖堂のどこか上の方で「リパブリック賛歌」をアカペラで歌う声でした。

ミサが終わった時、5番街のチェッカーキャブが私を載せてくれました。

「あんたのこと知ってるよ。」と運転手が言いました。「俺もボビーが好きだったよ。どこまで行く？俺のおごりだよ」

「ペンステーションへ頼むよ」と答えました。私はワシントン D.C. までの RFK の葬送列車と一緒に乗る予定でした。「でもゆっくり頼むよ。自分を取り戻すのにまだ時間が必要なんだ。」

ペンステーションで、私はピーター・エデルマン、ミネアポリス出身のボビーの側近の一人、に出会いました。私たちは黙って抱擁しました。声に出すことなど不可能でした。そして必要もありませんでした。

列車に乗り込むやいなや私はビューッフェ車両に向いました。それからの8時間は私が子どもの頃に良く参列したアイルランドの御通夜のようなものでした。それはいつも誰かの家の居間に棺が開けられて置かれているものでした。（この場合は列車の最後尾の車両が居間の役割を果たしました。）そして棺はいつも、ジョーク、乾杯、そして今はなき人の思い出話で満ち溢れ、飲んだり食べたり賑やかなパーティーの中心にあったのです。

私はヴァージニア、マクリーンのエセル・ケネディの家、ヒッコリーヒルでの集まりに参加してきました。そこにはダラス後ボビーの側近の一部になった比較的新しい顔ぶれとともに、沢山のジョン・F・ケネディの近い友人や顧問たちとが含まれていました。エセルはこの一団を「追放された政府」と呼んでいました。今彼ら全員がボビーの葬送列車に乗っていました。

私はアルに出くわしました。「あのさ」と私は切り出しました。「もし、残りの進歩主義者を殺してしまうという陰謀があったら、彼らがすべきことはこの列車にダイナマイトを仕掛けるだけだよ。」

彼はもう一度目を閉じました、「分かっている、分かっているよ」

私たちはペンステーションを出発しました。誰一人として、ニューヨークから南へ進むときに、列車の窓から見える物を予想していませんでした。それはいつも飛行機で旅するのを習慣としている私たちがほとんど目にするののない世界でした。コラムニストのラッセル・ベイカーは後に言っています、「これらの人々は土曜日にやるべき事を外でやっていた。しかし彼らは線路沿いに集まり、其々の思いを色々なかたちで表現した、：多くの謹厳な人々、花や看板そしていろんな物を抱えて来る人もいた。しかし私にとって印象的であったのは、アメリカがある土曜日の午後にくつろいでいるところを見た事であった。それはひとつの国全体をみたようであった。」

私は少々違うように捉えました。あの車両の窓を通して眺めると、私はしいたげられたアメリカを見ました一圧倒的多数の黒人が一彼らのヒーローになったであろうかもしれない男を運んでいると思う列車の通過を見つめていました。彼の政治演説の記録からは認識できないのですが、何らかの理由で、1968年におけるアメリカの黒人はRFKを友人そして救世主として見ていたのです。彼らは間に合わせで作った胸が張り裂けそうな看板を抱えていました：ロバート静かに平和に眠ってください。貴方のために祈ります。次は誰がなるのですか？私たちは最後の希望を失いました。さよならボビー。貴方のことをまだ愛しています。

そしてそこにはまた一人で立ち敬礼している人々がいました。中には制服姿の警察官や消防士たちもいました。他にはヘアーカーラーを巻いたままの女性が片手に赤ん坊を抱え、ぎこちなく敬礼をしている姿がありました。

列車がニュージャージーを通過している時、ボブの年長の息子のジョー、当時15才、が車両を訪ねてきました。私はNBCのプロデューサーのルーシー・ジャービスの隣に座っていました。彼女が言いました。「おやまあ、ケネディ家全員がこの列車の中を挨拶してまわるつもりなのよ。」彼女が正解でした。その後すぐにジャッキーが現れました、彼女は5年前の11月の彼女の夫のための4日間の時同様に呆然としていました。彼女の微笑みは固く、目はうつろで遠くをみているようでした。彼女は直ぐに居なくなりました；私は彼女をその後1980年まで見かけませんでした。その時はアル・ローウェンスタインが暗殺された後の古いイーストサイドユダヤ教会での追悼式で会ったのです。

ジャッキーが去った後、ちょっと前まで賑やかだった車両に非常な静寂の瞬間がありました。それはエセル・ケネディの間違いようもない声で破られました、「皆さんこれが唯一傾いていない車両よ。」（彼女は列車の旅が非常にガタガタするものだった事を指していました。）彼女は車両の中を皆と握手をし、言葉を交わして進みました。彼女は途方もなく傷ついているように見えたのですが、微笑み、大声で笑いジョークを言っていました。

その列車の旅は暗いものでした。ブレーキは故障するし、沿線の群集が通常4時間半の旅を8時間以上もかかるものにしました。ニュージャージーのエリザベスで、哀悼する群集が北行きの線路に溢れました。午後1時24分には、海軍元帥が轟音を立てて列車を追い越し、哀悼するために集まった群集を引いてしまいました。二人が亡くなり、6人が怪我をしました。私はその事故についてはずっと後になるまで知りませんでした。

私たちはボルティモアを通過しました。暗闇が訪れました。食べ物とお酒も無くなりました。空調も動かなくなりました。列車はより静かに、しめっぽく、憂鬱になりました。私たち皆が単に政治キャンペーンの、あるいはある価値ある男の命の終焉の証人になっているのではなく、一つの時代の終焉を見ていると感じていました。一般の生活は二度と興奮するような或いは高揚する物にはならないであろうことを私たちは知っていました。その時から40年間、私の心のなかではなんの変化も見えていません。

列車はワシントンユニオンステーションに9時ごろ到着しました。私は葬儀の随員の誰かの車と一緒に乗るように招かれました。私が乗り込むやいなやドアが私の右手の上に閉まりました。

葬列が駅からアーリントンに向かって進み出した時にはとても暗くなっていました。私たちがレサレクションシティと言うスラム街を通っている時、そこでは何千もの黒人がアメリカに於ける絶え間ない貧困に講義して集まっていたのです。彼らは葬列に対し固く握った拳で敬礼し、ろうそくと、新聞紙を丸めて形作った松明に火を灯しました。コーラスが「リパブリック讃歌」を再び歌いました。アーリントンへ入る橋を渡っている時、私は墓地の上の丘が燃えんばかりに光輝いているのに気がつきました：さらなるろうそくと新聞紙の松明です。

葬列は進むのを止めました。私は車から降りました。誰かが私にろうそくを渡してくれました（私は燃え尽きたろうの塊を今も持っています）。ろうそくに照らし出された暗闇の中で、棺の付き添い人達が埋葬場所へとボブの棺を担いで運びました、彼らはひどく寂しげで、若くてとてももろく見えました—まるで友人が偉大な政治家ではなく、会社の仲間を埋葬するかのようでした。

手短な式典は直ぐに終わりました。大物たちが大統領とレディーバードジョンソン夫妻を先頭に去りました。私は残り、腫れた手を労わりながらわびしくろうそくを持ってました。棺はまだ埋葬されていませんでした。だんだんと警備の都合立ち入りを制限されていた群集が丘を登り彼の墓地に向かってきました。彼らはすすり泣きをしながら、棺の傍に膝まづき、棺に触れてお祈りをしました。突然私たちは皆とても年老いたように感じました。私は目を閉じハムレットの一節を思いました。「天使の群れの歌声に護られてどうぞ安らぎの眠りに。。。」

私は葬儀が午後7時には終わるだろうと思っていたので、ワシントンに一晩泊まる予定を立てていませんでした。しかしながら、今、もう真夜中近くになっていました。私は間もなくはじまるであろう「レマゲン鉄橋」の撮影のためロンドンそしてプラハへ飛ぶ日曜の夜

まで、どこへも行くところがありませんでした。気がつくと私はジョージタウンをぼーっとした状態で歩き回っていました。そして再びアルに出会い、互いに抱き締めました。アルは私が一晩泊まれる近くのホテルを教えてくださいました。私は彼に感謝し、そして言いました、「ねえ、私は夏の間、チェコスロバキアに居る予定だよ。私に会いに来ないか？あそこでは自由が芽生えつつあるようだね。ともかく、ここに居るよりマシだと思うよ。」

「招待してくれてありがとう。」「でも、私たちはまだシカゴで勝たなくてはいけないんだ。民主党は戦争を終わらせる誰かを推薦しなければならないんだよ」と彼は応えました。

「そしてそれは誰になるだろうね？」

「ヒュバートはどう？」

私は信じられませんでした。彼の直感がなんでであろうと、ヒュバート・ハンフリーはしっかりとジョンソンと彼の戦争を支えてきているのです。「ヒュバートはリンダンの部下だよ。」

「ひょっとしたら違うかもしれない。」とアルは応えました。「私は彼と連絡を取れることを願っているんだ。そして副大統領を辞任するように話すよ。はっきりと別れさせる。そして反戦政網を持った独立した民主党候補として出馬させる。」

それは信じ難く聞こえました、しかし私はアルを疑うよりも良く知っていたので、「まあ、私は君がジョンソンをやめさせることが出来るとは思ってもいなかったから、きっとまた二疋目のドジョウを狙えるかもしれないね。」

アルは悲しそうに私を見つめ、「恐らくね」と静かにいいました。「でも私はそう思っていないんだよ」彼は長いため息をつきました。「私にはそれ以上は分からないよ。世の中逆さまだ。」

そうして私たちは別れました。

その後アルとユージン・マッカーシーは反戦派民主党員が継続している活動に集中できるように「公開大会のための連合」という組織を立ち上げました。8月12日、マッカーシーは彼の支援者たちに大会中デモに参加するためにシカゴに来ないように、と力説しました。彼の意図は警察との衝突を避けることでした。ある者は従い、ある者は従いませんでした。

8月の大会中のシカゴの街並みでの崩壊は、伝説となりました。その街でのデモ参加者の数については色々と言われています、しかし大方では約5千人の抗議者が参加したに過ぎないと言われています。作業員として変装した警察官が群集に紛れ込み、騒動を扇動するのを助長しました。（10年後、CBS ニュース調査員がデモ参加者のうち6人に一人は潜入捜査員であったと主張しました。）数日間小さな衝突が続いた後、水曜日の夜に衝突は頂点に達しました。警察が、高まる怒りや失望を我慢して罵声や小さな攻撃にとどめていた抗議者達に、総攻撃を始めたのです。デモ参加者、記者、カメラマン、そして罪のない見物人らが一様に、こん棒で殴られ、蹴られ、殴られ、そして逮捕されたのです。後に、ウォーカー調査委員会はこの出来事を精査し、この暴力を「警官の暴動」と呼ぶこととなります。

一方、大会会場のインターナショナル アンフィシアターでは党员によって指揮されたハンフリーの強引な圧力が続いていました。何人かの反乱者はジョージ・マクガバンの味方に付き、他の人達はテッド・ケネディを引っ張りだそうと話していました。どちらの努力もすぐに消え去りました。

外の大混乱の映像が会場内に到達すると、大騒音が起こりました。コネチカットの上院議員アブラハム・リビコフがマクガバン推薦のための演説をしているとき、彼は原稿から離れて警察を非難しました：「ジョージ・マクガバーンにはシカゴの街にゲシュタポ置きません」。TVカメラは素早く、ステージ近くのイリノイ代議員の間に座っていたシカゴ市長のリチャード・ディリーを映しました。激しく怒り、彼は演壇に向かって叫びました。彼の言葉はネットワークのマイクには拾われませんでした。読唇術者たちはこう記録しています、「むかつく野郎だ、ユダヤのこんちくしょう、この薄汚い糞バカ野郎、さっさと帰れ。」

ハンフリーはジョンソンの負の遺産からなんとか抜け出す方法を探し続けていました。副大統領のスタッフは実際のところ休戦をもたらすための反戦声明を準備しました。しかしハンフリーがそれをジョンソンに見せた時、大統領は激しい口調でもしハンフリーがそれを発表したら彼の全権力を酷使してハンフリーを潰すと襲いかかりました。ハンフリーは発表しませんでした。

大会の荒唐的な映像は世界に放映されました：シカゴの街での暴力：民主党員の間の混乱、分裂、そして怒り：その全ての中心が、嵐の表面で必死に団結、平和、寛容の精神を引き起こそうとしている無力なヒューバート・ハンフリーでした。

多くの人があの混沌とした大会がハンフリーの選挙を台無しにしたと言います。もし、それが秋のキャンペーンが始まる前にもうハンフリーの勝利を不可能にしたと言う意味であれば、それは明らかに間違いです。選挙の終盤では全ての世論調査が一時はハンフリーに広く水をあけていた共和党のニクソン候補が急速に衰えていたのを示しています。11月5日、ニクソンは投票の43.42パーセントで選出されました、ハンフリーを一般投票限度の6千3百万票のうちたった250万票の差で破っているのです。（残りの殆どの票はアラバマ出身の右翼の独立候補ジョージ・C・ウォレスに投じられました）もし、キャンペーンが、あと、そう5日延びて、おそらくハンフリーが勝っていたでしょう。

実際のところ、ハンフリーが戦争反対の演説する勇気があるだけで、十分勝てたかもしれないと言えるでしょう。そこには想像出来る限りの沢山のシナリオがありました、そのうちのひとつにハンフリーが新たな政策に進めるよう、彼自身を自由にするために副大統領を辞任すると言うものがありました。しかし、ハンフリーはこれを拒みました。このような状況下で、彼は両方の世界の最悪な条件を持っていたのです：ジョンソンの嫌われた戦争を背負い込み、彼は更に大統領からあからさまに軽蔑されて扱われていました、大統領はベトナムやパリの平和会議での進捗状況ですらハンフリーに知らせることを拒んでいたのです。1968年の選挙戦が迫るにつれ、この錨は民主党の敗北に十分過ぎるものでした。

1968年10月、私はロンドンのサボイホテルの机にアメリカ大統領選挙の不在者投票用紙をじっと見つめて座っていました。ハンフリーが公然と反戦の立場を示すことに失敗したことが、彼が本当はどう思っていたかは疑わしいけれども、数百万もの票を失う結果となったのです。私の票にでさえ、影響を及ぼすところでした：私はハンフリーの弱さになんとも抵抗し、共和党の候補者に投票しようとする一瞬考えたくらいです。「私にはそれは出来ません。」最後はそういう結論に達しました。私はハンフリーの名前の横の欄にX記しを付けました、それで何も変わることがないであろうと知っていました。

これだけの年月の後にその写しを読むのはとても驚くべき経験です。それから何年かして、リチャード・ニクソンは学生暴動、人種の対立の増加、ウォーターゲイトスキャンダル、そしてベトナムでの更なる6年間以上死を統轄することになるのです。振り返って見ると、それは全て実際のところ避けられない必然だったのです。彼らの世代の最高の人達—ジョン、マーティン、そしてボビーが皆、命を奪われてしまいました。私たちは彼らのような人々に二度と出会うことはないでしょう。